

MS&AD Report

通期ご報告

2009.4.1～2010.3.31

証券コード:8725

MS&AD MS&AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社



4月1日、三井住友海上、あいおい損保、ニッセイ同和損保はひとつに。

日本No.1* 損保グループ・MS&ADインシュアランスグループ誕生。

3つの力で、世界をHAPPYに。

*国内損害保険会社における正味収入保険料額(2010年3月各社業績発表より、自社調べ)

持続的成長と企業価値向上を追い続ける 世界トップ水準の保険・金融グループを創造します。

Question

新グループの状況と展望についてお聞かせください。

Answer: 2009年度は国内経済が全体としては低調に推移する中、損害保険業界では自動車保険や海上保険の低迷などから保険料収入が減少し、生命保険業界では少子高齢化を背景として新規契約高の減少が続くなど、保険業界は総じて引き続き厳しい事業環境におかれましては。

このような中、2010年4月1日、「MS&ADインシュアランスグループ」が発足しました。新たなグループ中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」では、三井住友海上火災保険株式会社(以下、三井住友海上)、あいおい損害保険株式会社(以下、あいおい損保)およびニッセイ同和損害保険株式会社(以下、ニッセイ同和損保)のシステムを統合することによるシステム開発や運用の効率化、コストの削減など、経営統合によるシナジー効果を発揮し、収益力をさらに向上させること、持株会社を中心としたグループ・ガバナンス体制を確立し、健全な事業運営を行うこと、あらゆる業務における品質

を向上させ、お客さまの信頼を獲得し、成長を実現することなどを目指しています。国内損害保険事業、国内生命保険事業、海外事業、金融サービス事業、リスク関連サービス事業の各事業を積極的に推進することにより、グローバルに事業展開する世界トップ水準の保険・金融グループを創造していきます。

2009年度の業績:

当社グループの2009年度業績を三井住友海上グループホールディングス株式会社、あいおい損保、ニッセイ同和損保の各社数値の合算ベース*1で概観すると以下のとおりです。各社毎の決算状況や業績見込みの詳細につきましては、「業績ダイジェスト」、「グループ会社の状況」の部分にまとめておりますので、そちらもご覧ください。

連結正味収入保険料は2兆5,190億円と、前期を720億円下回り、2.8%の減収となりました。三井住友海上とあいお

い損保は単体でそれぞれ減収。ニッセイ同和損保は単体で0.6%の増収を確保しました。

当期純利益は573億円と、前期比668億円の増益となりました。金融危機の影響を強く受けた前期に比べて資産運用収支が大幅に改善したことが主な要因です。三井住友海上単体では前期比211億円の減益ですが、経常利益では増益を確保しています。傘下の海外事業子会社は前期に金融危機の影響を受けた欧州子会社の損益が回復したことなどから、432億円の増益となりました。あいおい損保単体、ニッセイ同和損保単体についてはいずれも黒字を回復し、合わせて375億円の増益となりました。

*1 ●三井住友海上グループホールディングス(連結)、あいおい損保(連結)、ニッセイ同和損保(単体)の単純合算値です。
●ここでは、三井住友海上の自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。

代表取締役社長
江頭 敏明



Question

新グループの株主還元方針についてお聞かせください。

Answer: グループの中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」では、統合効果の発揮と成長戦略の推進による収益の拡大を株主還元の増大へとつなげることを謳っています。具体的な株主還元としては、配当と自己株式の取得を通じ、中期的に「グループコア利益」*2の50%を目処として利益還元を行ってまいります。また、成長領域への積極的な事業投資を継続することにより持続的な成長サイクルを実現し、利益の拡大を通じて株主還元の増大を目指します。

*2

MS&ADインシュアランスグループにおける「グループコア利益」は、MS&ADインシュアランスグループ独自の利益指標で、以下の方法により算出します。
算出方法 グループコア利益=連結当期利益-株式キャピタル損益(売却損益等)-クレジットデリバティブ評価損益-その他特殊要因+非連結グループ会社持分利益

株主の皆さまには、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

「MS&ADインシュアランス グループ」がスタートしました。

2010年4月1日付で、三井住友海上グループホールディングス、あいおい損害保険、およびニッセイ同和損害保険が経営統合し、「MS&ADインシュアランス グループ」としてスタートしました。スピード感を持って事業基盤および経営資源の質・量の強化・拡大を図り、世界トップ水準の保険・金融グループを創造して、持続的な成長と企業価値の向上を実現します。



MS&ADインシュアランス グループの目指す姿

スピード感を持って飛躍的に事業基盤および経営資源の質・量の強化・拡大を図ることにより、グローバルに事業展開する世界トップ水準の保険・金融グループを創造して、持続的な成長と企業価値向上を実現する

経営理念(ミッション):

「MS&ADインシュアランス グループの存在意義」

グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます

経営ビジョン:

「MS&ADインシュアランス グループが中期的に目指す姿」

持続的な成長と企業価値向上を追い続ける世界トップ水準の保険・金融グループを創造します

行動指針(バリュー):

「経営理念(ミッション)を実現するために、MS&ADインシュアランス グループの全社員が行動する際に大事にすること」

【お客さま第一】CUSTOMER FOCUSED(カスタマー・フォーカス)

わたしたちは、常にお客さまの安心と満足のために、行動します

【誠実】INTEGRITY(インテグリティ)

わたしたちは、あらゆる場面で、あらゆる人に、誠実、親切、公平・公正に接します

【チームワーク】TEAMWORK(チームワーク)

わたしたちは、お互いの個性と意見を尊重し、知識とアイデアを共有して、ともに成長します

【革新】INNOVATION(イノベーション)

わたしたちは、ステークホルダーの声に耳を傾け、絶えず自分の仕事を見直します

【プロフェッショナリズム】PROFESSIONALISM(プロフェッショナリズム)

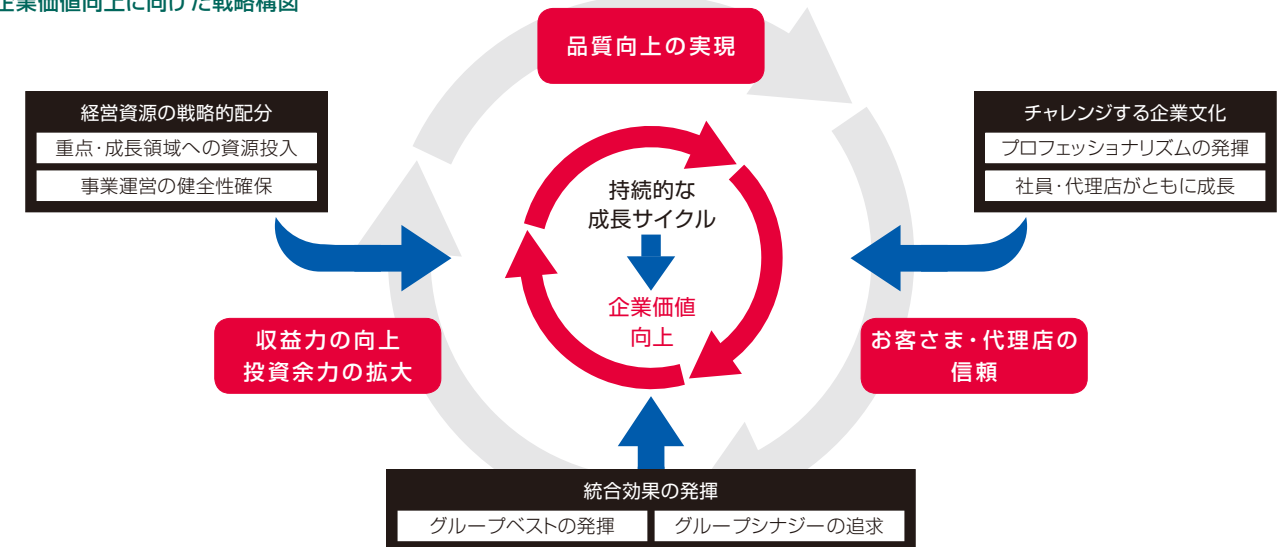
わたしたちは、自らを磨き続け、常に高い品質のサービスを提供します

グループの基本戦略について

基本戦略:

- 品質向上を通じて、お客さまの信頼を獲得し、成長を実現する
- グループの総合力を結集してグループシナジーを追求し、収益力を格段に強化する
- 選択と集中による戦略的な資源配分を実施するとともに、健全な事業運営を行う
- プロフェッショナルとしてチャレンジする企業文化を醸成し、社員・代理店とともに成長する

企業価値向上に向けた戦略構図

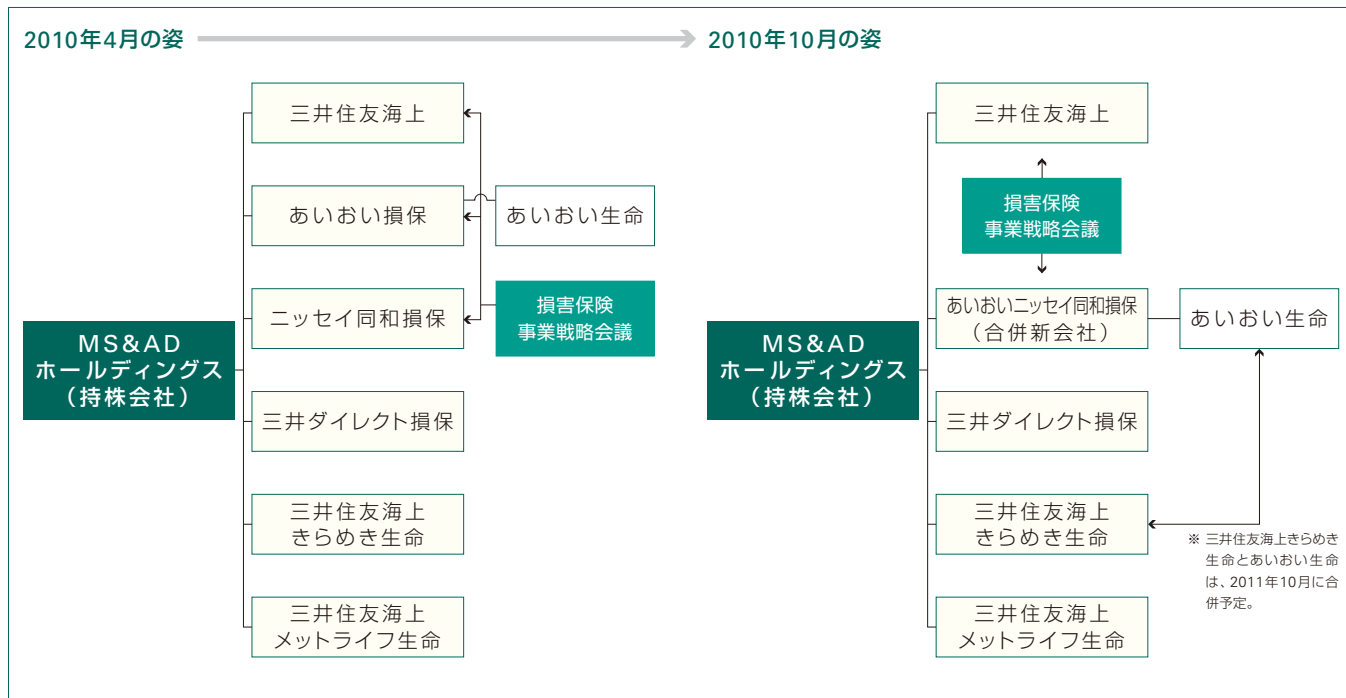


今後の経営体制について

今後は、グループ全体の成長力・収益力を強化する観点から、グループ全体の経営戦略を推進する持株会社の機能と、市場へ迅速に対応し事業執行を推進する事業会社の機能を明確に分離し、高いガバナンスを発揮していきます。

持株会社であるMS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(以下「MS&ADホールディングス」)は、執行役員制を引き続き採用し、取締役による経営の意思決定・監督機能と、執行役員による業務執行機能を分離し、迅速な執行と効果的な

経営管理を実現します。また、経営の透明性確保と多角的な視点からのガバナンス実現のため、取締役13名のうち4名を社外取締役とし、監査役5名のうち3名を社外監査役とします。さらに損保領域におけるシナジー効果を最大限に発揮するため、グループ会社間の営業推進、商品戦略、損害サービスなど、個々の事業戦略の調整を行うことを目的として、「損害保険事業戦略会議」を設置します。



「シンボルマークについて」



INSURANCE GROUP

青みを帯びた落ち着いた深い緑は、世界の人々に対して誠実な対応と高品質なサービスの提供を約束する色です。そこに鋳抜かれた端正なロゴタイプは「プロフェッショナリズムの集結」を表しています。世界の保険・金融マーケットに挑戦するMS&ADインシュアランス グループの強い志のかたちです。

グループ中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」について

MS&ADインシュアランス グループでは2013年にグループ利益指標(以下、グループコア利益)1,500億円、目標数値として、連結正味収入保険料2兆7,000億円、生命保険の保有契約年換算保険料3,300億円、グループROE7%を掲げ、グループの総合力を結集させ取り組んでいきます。

当社グループの最大の強みは、国内損害保険事業における圧倒的な営業基盤です。この強みを活かし、2013年度にグループコア利益1,000億円を目指します。

海外事業では、足元を固めつつ、アジア・欧州をターゲットとしてM&Aも進めていきます。こうした積極的な成長戦略の展

開により、グループコア利益300億円規模の達成に向け取り組みます。

国内生命保険事業では、今後の着実な規模の拡大と、あいおい生命が既に利益を積み上げていること、三井住友海上きらめき生命が標準責任準備金を積み終えた2011年度以降、利益を上げることから、合計で150億円のグループコア利益を目指します。

上記を含めた5つの事業トータルで、2013年度に連結正味収入保険料で2兆7,000億円、グループコア利益では1,500億円を目指します。

目標事業ポートフォリオ

	(単位:億円)	
	2009年度 (実績)	2013年度 (目標)
グループ利益指標*	338	1,500
国内損保	199	1,000
国内生保	58	150
海外	131	300
金融サービス/リスク関連サービス	△51	50

*グループ利益指標

グループコア利益=連結当期利益-株式キャピタル損益(売却損益等)-クレジットデリバティブ評価損益-その他特殊要因+非連結グループ会社持分利益

目標数値

	(単位:億円)	
	2009年度 (実績)	2013年度 (目標)
連結正味収入保険料	25,190	27,000
生保 保有契約 年換算保険料*1	2,681	3,300
グループROE*2	2.0%	7.0%

*1 あいおい生命と三井住友海上きらめき生命の合算値(団体保険を除く)。

*2 グループROE=グループコア利益÷期初・期末平均連結純資産(除く少数株主持分)。

業績ダイジェスト (2009年度: 連結)

三井住友海上グループ
ホールディングス

あいおい損保

ニッセイ同和損保

単位: 億円

	2008年度	2009年度	増減額	増減率
経常収益	20,400	19,626	-773	-3.8%
保険引受収益	18,318	18,126	-192	-1.0%
正味収入保険料	14,456	13,941	-514	-3.6%
資産運用収益	2,031	1,399	-632	-31.2%
その他経常収益	49	101	51	105.0%
経常費用	20,530	19,099	-1,430	-7.0%
保険引受費用	15,699	15,611	-88	-0.6%
資産運用費用	1,700	470	-1,230	-72.4%
営業費及び一般管理費	3,023	2,949	-73	-2.4%
その他経常費用	106	68	-37	-35.4%
経常利益 (又は経常損失 (-))	-130	526	657	-
当期純利益	81	376	294	359.5%
総資産	74,407	75,196	789	1.1%
純資産	10,230	13,110	2,880	28.2%

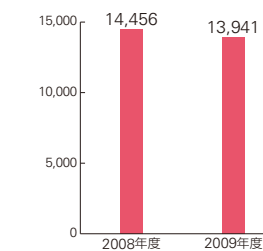
(注) あいおい損害保険株式会社、ニッセイ同和損害保険株式会社および三井住友海上グループホールディングス株式会社は、2010年4月1日に株式交換による経営統合を完了し、新グループ「MS&ADインシュアランスグループ」を発足させました。当社は同日付で会社名を「三井住友海上グループホールディングス株式会社」から「MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社」に変更しておりますが、本資料上、2009年度以前の当社グループの業績に関しましては、「三井住友海上グループホールディングス株式会社」の業績として記載しております。

→ 正味収入保険料

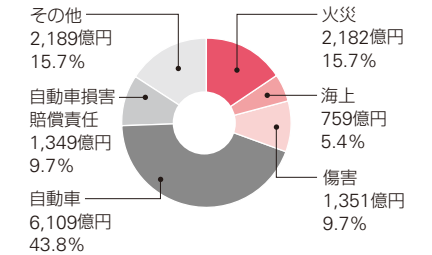
正味収入保険料は1兆3,941億円と、前期に比べて3.6%の減収となりました。これは三井住友海上単体で2.5%の減収となったほか、海外保険子会社で12.8%の減収となったことによるものです。ただし、この海外保険子会社の減収は主に円高の影響であり、外貨ベースで見れば3.6%の増収と、海外における業容はアジアを中心に拡大を続けております。

正味収入保険料

(単位: 億円)



種目別構成 (2009年度)

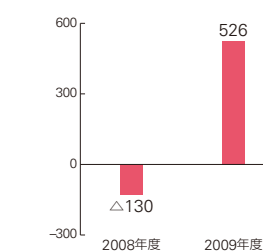


→ 経常利益・当期純利益

経常利益は526億円と、前期に比べ657億円の増加となりました。また、当期純利益は376億円と、前期を294億円上回る増益決算となりました。これは、海外の収支が大幅に改善したことや金融危機の影響を大きく受けた前期に比べ資産運用収支が大幅に改善したことが主因です。

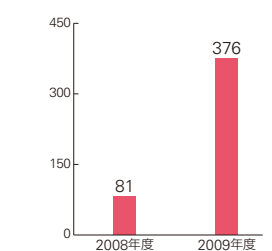
経常利益 (又は経常損失)

(単位: 億円)



当期純利益

(単位: 億円)

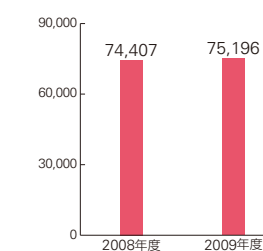


→ 総資産

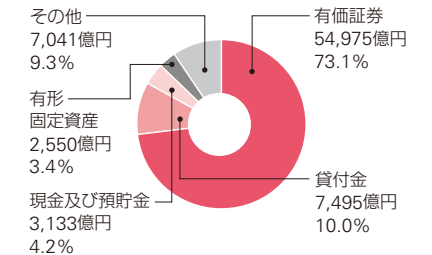
総資産は7兆5,196億円と、前期末より789億円増加しました。これは、株式相場の上昇を背景に有価証券が3,866億円増加したことなどによります。

総資産

(単位: 億円)



総資産の構成 (2009年度)

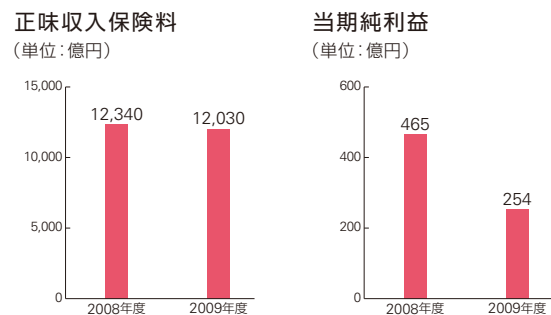


グループ会社の状況 (2009年度)

三井住友海上火災保険

当期の状況

正味収入保険料は、自賠責保険の料率引き下げの影響や、物流減少に伴う海上保険の減収といった要因により1兆2,030億円と、前期に比べ310億円減少しました。正味支払保険金は、台風18号等の支払いはあったものの全体的に減少し、資産運用面における損益も大幅に改善したことから、経常利益は357億円と、前期に比べ102億円増加しました。一方、当期純利益は、多額の価格変動準備金を取崩した前期に比べて特別利益が減少したことなどから、254億円と前期を211億円下回りました。



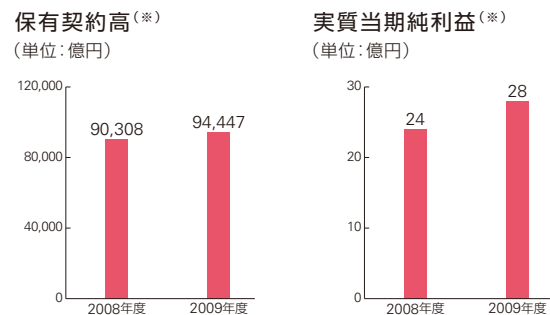
ソルベンシー・マージン比率

839.4% (2010年3月末現在)

三井住友海上きらめき生命保険

当期の状況

販売活動量増加を背景に個人保険および個人年金保険の保有契約件数は119万件と前期を11.5%上回り、また、当期末の保有契約高は9兆4,447億円と前期末に比べ4.6%増加しました。保険業法上の標準責任準備金積立の達成に向け責任準備金の積増しを行ったため、損益計算書における当期純利益は37百万円にとどまっていますが、積増しがなかった場合の実質当期純利益は28億円となりました。



(*) 個人保険+個人年金保険の保有契約高

(*) 標準責任準備金積増前利益

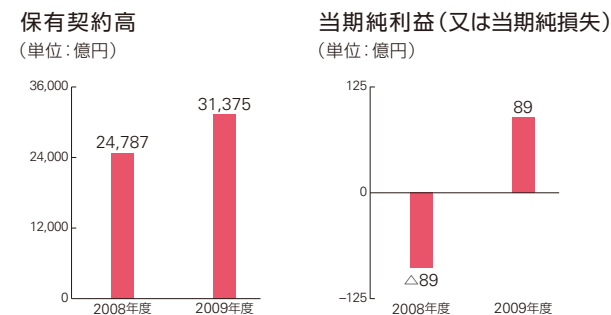
ソルベンシー・マージン比率

2,129.7% (2010年3月末現在)

三井住友海上メットライフ生命保険

当期の状況

収入保険料は4,436億円となり、前期比28.4%減少しました。保有契約高は運用環境の好転等を背景に、前期末比26.6%増加して3兆1,375億円となりました。当期純利益は、資産運用益の増加や事業費の改善などによって、前期比178億円増加して89億円となり、単年度決算において開業以来初の黒字を計上しました。



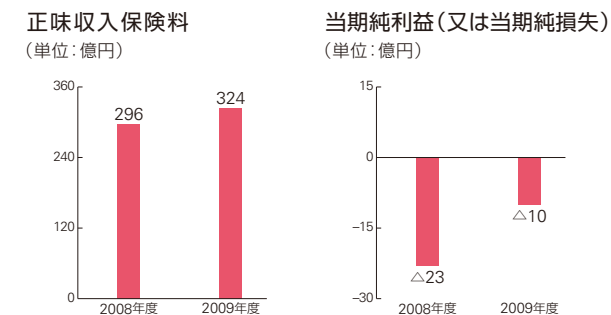
ソルベンシー・マージン比率

1,058.0% (2010年3月末現在)

三井ダイレクト損害保険

当期の状況

国内自動車保険市場は厳しい環境が続く中、インターネットに特化した独自のビジネスモデルを展開するとともに、事業費の抑制・削減を行うなど、業績を一層伸長させるための各種取り組みを実行し、正味収入保険料は前期比9.3%増の324億円と引き続き高い成長率を維持する一方、正味事業費率は24.8%と前期に比べ3.4ポイント低下させることができました。



ソルベンシー・マージン比率

669.8% (2010年3月末現在)

ソルベンシー・マージン比率とは、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

業績ダイジェスト (2009年度: 連結)

三井住友海上グループ
ホールディングス

あいおい損保

ニッセイ同和損保

単位: 億円

	2008年度	2009年度	増減額	増減率
経常収益	10,755	10,441	-313	-2.9%
保険引受収益	9,857	9,712	-144	-1.5%
正味収入保険料	8,291	8,114	-176	-2.1%
資産運用収益	872	688	-183	-21.1%
その他経常収益	25	40	14	57.2%
経常費用	10,985	10,077	-907	-8.3%
保険引受費用	8,247	8,293	45	0.5%
資産運用費用	1,135	149	-985	-86.8%
営業費及び一般管理費	1,588	1,627	39	2.5%
その他経常費用	13	6	-6	-50.3%
経常利益 (又は経常損失(-))	-230	363	594	-
当期純利益 (又は当期純損失(-))	-109	166	275	-
総資産	28,041	28,554	512	1.8%
純資産	2,668	3,468	799	30.0%

<ご参考> あいおい損害保険(株)単体

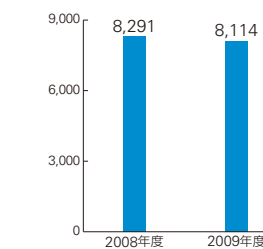
ソルベンシー・マージン比率 ▶ **755.9%** (2010年3月末現在)

→ 正味収入保険料

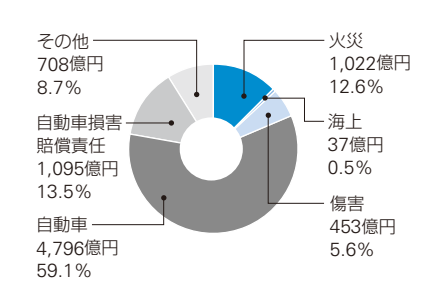
正味収入保険料は8,114億円と前期比2.1%の減収となりました。これは、あいおい損保(単体)が、自動車損害賠償責任保険の料率引き下げの影響に加え、国内自動車販売の落ち込みなどにより主力の自動車保険が減収したことなどによります。

正味収入保険料

(単位: 億円)



種目別構成 (2009年度)

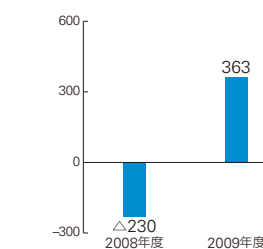


→ 経常利益・当期純利益

経常利益は前期を594億円上回り363億円となりました。これは、金融危機の影響を大きく受けた前年に比べて市場環境が改善し、資産運用費用が大きく減少したことなどによります。
一方、当期純利益は前期に比べ275億円増益の166億円となりました。

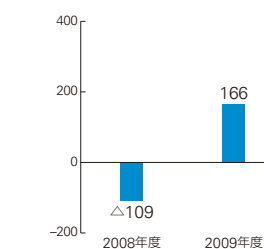
経常利益 (又は経常損失)

(単位: 億円)



当期純利益 (又は当期純損失)

(単位: 億円)

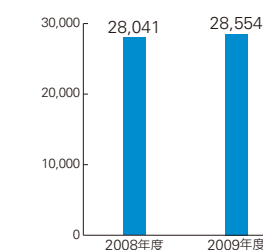


→ 総資産

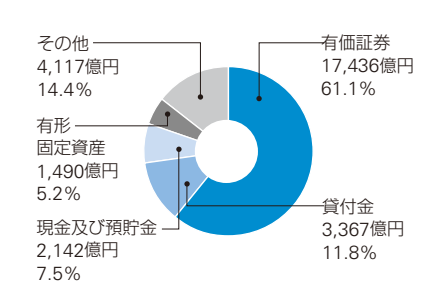
総資産は2兆8,554億円と、前期末より512億円増加しました。これは、有価証券が1,016億円増加したことなどによります。

総資産

(単位: 億円)



総資産の構成 (2009年度)



業績ダイジェスト (2009年度: 単体)

三井住友海上グループ
ホールディングス

あいおい損保

ニッセイ同和損保

単位: 億円

	2008年度	2009年度	増減額	増減率
経常収益	3,836	3,927	90	2.4%
保険引受収益	3,512	3,498	-14	-0.4%
正味収入保険料	3,109	3,126	17	0.6%
資産運用収益	315	420	104	33.1%
その他経常収益	8	8	0	6.4%
経常費用	4,004	3,826	-178	-4.5%
保険引受費用	3,060	3,086	26	0.9%
資産運用費用	349	177	-172	-49.3%
営業費及び一般管理費	584	553	-30	-5.2%
その他経常費用	10	8	-2	-21.1%
経常利益 (又は経常損失(-))	-168	100	269	-
当期純利益 (又は当期純損失(-))	-67	30	97	-
総資産	11,001	11,062	60	0.6%
純資産	1,843	2,044	200	10.9%

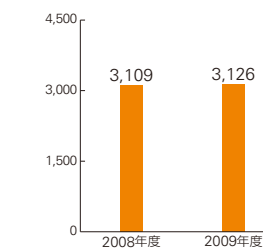
ソルベンシー・マージン比率 ▶ 901.5% (2010年3月末現在)

→ 正味収入保険料

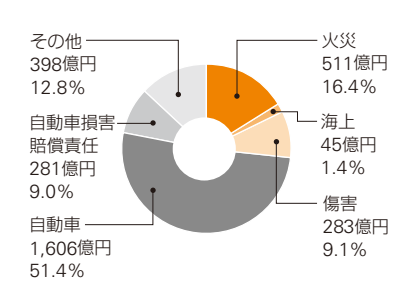
正味収入保険料は、傷害保険や自動車損害賠償責任保険などは減収となりましたが、主力の自動車保険と火災保険で増収したことにより、前期比0.6%増収の3,126億円となりました。

正味収入保険料

(単位: 億円)



種目別構成 (2009年度)

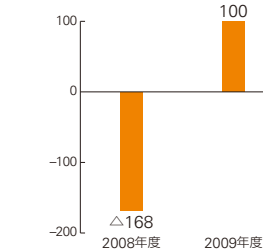


→ 経常利益・当期純利益

経常利益は、運用環境の改善により有価証券評価損が減少したことなどにより、前期に比べ269億円増加の100億円となりました。当期純利益は、前期に比べ97億円増益の30億円となりました。

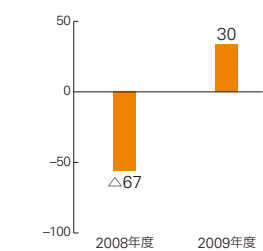
経常利益 (又は経常損失)

(単位: 億円)



当期純利益 (又は当期純損失)

(単位: 億円)



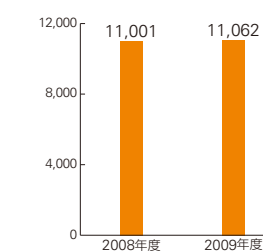
→ 総資産

総資産は前期末より60億円増加の1兆1,062億円となりました。

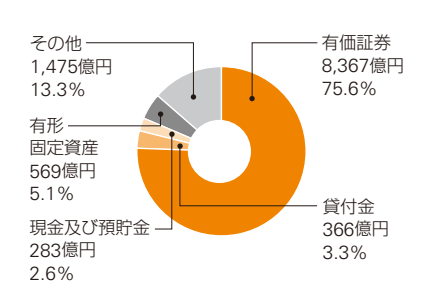
純資産は、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前期末より200億円増加の2,044億円となりました。

総資産

(単位: 億円)



総資産の構成 (2009年度)



MS&ADインシュアランスグループでは、この美しい地球を次の世代に引き継いでいくため、さまざまな環境問題に積極的に取り組んでいます。また、グループ内に各種制度を整え、事業活動を通じた社会貢献活動や社員・代理店による主体的な社会貢献活動の支援を行っています。

「Green Power サポーター」活動

三井住友海上

「保険」を通じてお客さまとともに地球環境保護に取り組む「Green Power サポーター」活動を行っています。「Green Power サポーター」の活動内容は、紙の使用量を削減する「Web約款」や、CO₂や有害物質の排出を削減する「エコ整備・エコ車検」、環境にやさしい自動車修理を行う「リサイクル部品活用」などです。

また、これら活動の取組み達成度に応じた金額を「グリーン電力基金」へ寄付しています。「グリーン電力基金」とは、環境にやさしい「グリーン電力」の普及を応援する基金で、寄付金は太陽光発電や風力発電といった自然エネルギー発電設備などの助成金に充てられています。



車椅子バスケットボールの支援活動

あいおい損保

交通事故などで障害を負った方々の、自立や社会復帰に役立ちたいという思いから、車椅子バスケットボール日本代表チームの公式スポンサーをはじめ、車椅子ツインバスケットボールの全国大会など、各種大会の協賛や大会へのボランティア参加などを行っています。



ベルマーク運動への参加

ニッセイ同和損保

2000年4月より協賛会社として「ベルマーク運動」に参加し、自動車保険をはじめ、火災保険・傷害保険・積立保険の各分野で、主に一般家庭を対象とする保険商品にベルマークポイントを付帯しています。現在、ベルマーク運動には全国の約2万8千を超えるPTAが参加しており、この運動への参加を通じて教育環境の改善を支援しています。



生物多様性の保全活動

三井住友海上

インドネシアにおける熱帯林再生プロジェクトや、周辺地域の自然生態系との共生に配慮した駿河台ビル緑地の保全などを通じて、生物多様性の保全活動を行ってきました。生物多様性の保全活動は、地球温暖化対策とともに、企業全体が国や市民などと協力して取り組むべき課題となっています。そこで、生物多様性の保全活動にさらに貢献していくために3つの行動を起こしました。

1. 生物多様性の保全活動をテーマにしたシンポジウムの定期開催
2. 生物多様性の保全活動に関する企業ネットワークでの共同研究
3. 生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）で提唱した「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」の「リーダーシップ宣言」に署名

こうした行動により、当社を含む企業の取組みレベルや社会全体の意識を高めたいと考えています。



「リーダーシップ宣言」の署名リスト



COP9の全体会議の様子

地域と連携した環境保全活動

あいおい損保



毎年10月をあいおいの月（IOIのロゴより）とし、2003年度から全国各地で役職員とその家族および代理店のボランティアによる地域貢献活動を実施しています。2009年度は、環境保全とりわけ生物多様性保全活動を中心に実施、谷津干潟での葦刈りや、ビーチクリーン活動など、全国で104取組み、約6,700名が参加し環境保全活動を実施しました。

皆野町「美の山公園」で植樹活動に参加

ニッセイ同和損保

2009年10月に、(財)ニッセイ緑の財団と“ニッセイの森”友の会が主催する植樹活動に参加し、埼玉県皆野町内の県立美の山公園頂上付近において、地元皆野町のボランティアの方々と一緒に汗を流しました。この活動は、美の山公園の皆野町町有林について「埼玉県」、「皆野町」および「(財)ニッセイ緑の財団」の間で締結した「埼玉県森林づくり協定」に基づき、植栽、下草刈り等の保育などを実施しているものです。



会社概要／役員／株式の状況

会社概要 (2010年4月1日現在)

社名	MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区八重洲一丁目3番7号
設立	平成20年(2008年)4月1日
資本金	1,000億円
従業員数	36,576名

*従業員数は三井住友海上グループ ホールディングス(株)(連結)、あいおい損害保険(株)(連結)、ニッセイ同和損害保険(株)(単独)の2010年3月31日現在の合計人数です。

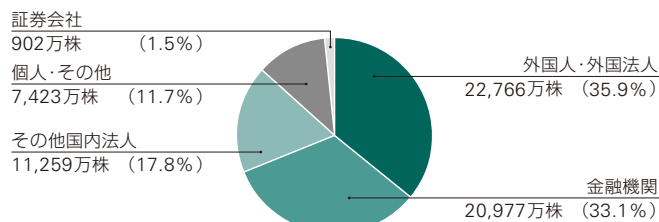
役員 (2010年6月29日現在)

取締役社長(代表取締役)	社長執行役員	江頭 敏明
取締役(代表取締役)	執行役員	立山 一郎
取締役(代表取締役)	執行役員	児玉 正之
取締役(代表取締役)	執行役員	柄澤 康喜
取締役	専務執行役員	藤本 進
取締役	常務執行役員	堀本 修平
	常務執行役員	梅村 孝義
取締役	執行役員	鈴木 久仁
取締役	執行役員	米田 正典
取締役	執行役員	池田 克朗
	執行役員	岸本 保夫
	執行役員	藤本 一之
	執行役員	太田 誠一
	執行役員	藤井 史朗
	執行役員	土屋 光弘
		関 俊彦
社外取締役		渡邊 顯
社外取締役		梅津 光弘
社外取締役		角田 大憲
監査役(常勤)		山下 尚
監査役(常勤)		應地 正彦
社外監査役		安田 莊助
社外監査役		野村 晋右
社外監査役		手塚 裕之

株式の状況 (2010年4月1日現在)

発行済株式の総数	633,291,754株
株主数	77,922名

所有者別分布状況



大株主状況(上位10名)

株主名	保有株式数(万株)	持株比率(%)
トヨタ自動車株式会社	5,261	8.3
日本生命保険相互会社	3,632	5.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,036	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,020	4.8
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,191	3.5
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,255	2.0
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	1,099	1.7
NATSCUMCO	907	1.4
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	712	1.1
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	672	1.1

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで				
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内に開催します。				
配当の基準日	<table border="0"> <tr> <td>期末配当金</td> <td>毎年3月31日</td> </tr> <tr> <td>中間配当金</td> <td>毎年9月30日</td> </tr> </table> <p>(注)配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。</p>	期末配当金	毎年3月31日	中間配当金	毎年9月30日
期末配当金	毎年3月31日				
中間配当金	毎年9月30日				

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部

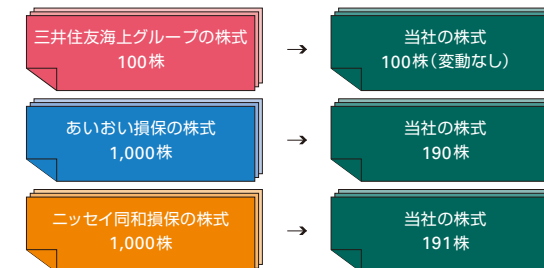
(郵送物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

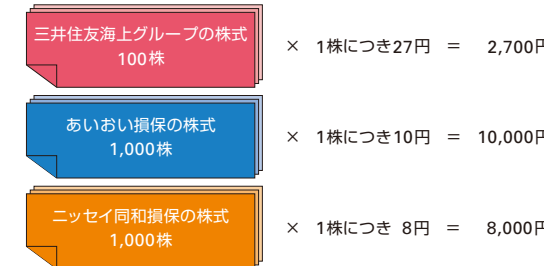
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 住友信託銀行株式会社 ☎ 0120-176-417
三菱UFJ信託銀行株式会社 ☎ 0120-232-711

公告方法 電子公告の方法により、下記ホームページに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。
<http://www.ms-ad-hd.com/company/notification/index.html>

経営統合による株式の数の変動について
2010年4月1日付の経営統合に伴って、ご所有の株式の数が、3月31日現在お持ちだった株式の銘柄・数に応じ、次のとおり変わっています。なお、当社の株式の売買単位(単元)は100株です。



配当金の計算について
2010年4月1日付の経営統合にかかわらず、2010年6月の配当金の額は、3月31日現在お持ちだった株式の銘柄・数に応じて計算されています。なお、12月中旬お支払い予定の中間配当金については、9月30日時点でお持ちの株式の数により計算されます。



単元未満株式の買取・買増請求について
証券取引所で売買できない、100株未満の株式(単元未満株式)については、買取・買増のご請求により整理することができます。詳しくは、口座を開設されている証券会社(特別口座に記録された単元未満株式についてのご請求の場合は、特別口座管理機関)にお問合わせください。

買取の例	買増の例
150株 → 50株を当社に売却 → 100株 になります。	150株 → 50株を当社から購入 → 200株 になります。

MS&ADグループ経営統合記念イベントのご紹介

2010年4月1日付で発足した持株会社、MS&ADインシュアランス グループ
ホールディングス株式会社の統合記念イベントを行っています。

TOPICS 01

経営統合記念コンサート “マスター・プレイヤーズ、ウィーン”を 開催しました

4月4日(日)に東京オペラシティ コンサートホール(東京都新宿区)で「MS&ADホールディングス 統合記念コンサート“マスター・プレイヤーズ、ウィーン”」を開催しました。同コンサートは、ウィーン国立歌劇場の協力を得て、特別に編成された世界最高水準の室内オーケストラで、ウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルのメンバーとその仲間たち30名で編成されて

います。同団体は2000年に結成され、これまでに8度の来日で、日本全国で計63公演、11万人を超える来場者数を誇っています。今回は、MS&ADインシュアランス グループ発足の記念として、多くの方々に世界トップクラスの芸術鑑賞の機会をご提供させていただきました。



TOPICS 02

スタジオジブリ 「借りぐらしのアリエッティ」に 特別協賛します

MS&ADグループでは、2010年4月1日付で経営統合したことを記念し、7月17日(土)より全国ロードショーされるスタジオジブリ最新作「借りぐらしのアリエッティ」に特別協賛しています。この作品は、巨匠、宮崎駿監督の企画で、スタジオジブリ史上最年少監督となる米林宏昌監督がメガホンを取った本年夏に最も注目される映画作品のひとつです。宮崎駿監督が、約40年以上前に読んだイギリスの児童文学「床下の小人たち」が原作となっています。国際的にも評価の高いスタジオジブリ作品への協賛を通して、国内No.1の損保グループとして、お客さまの暮らしを守り、世界にチャレンジしていく「MS&ADインシュアランス グループ」のブランドを展開していきます。



MS&AD MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル <http://www.ms-ad-hd.com>

地球環境のため再生紙を使用しています。